

## 正誤表

このたびは小社刊『100年前の東大入試数学 ディープすぎる難問・奇問 100』の記述に誤りがありました。お詫びとともに訂正させていただきます。

ページ	誤	正
p.65・主点	円の中心を通るように弦をひけば△OABの面積を0にできるため、極小値は存在しない、または0です。そこで、極大値（最大値）のみ考えましょう。点Pの位置は、対称性より円の中心Oとの距離だけを考えればよいですね。	極大値・極小値は変数設定次第で（最大値・最小値よりさらに）変わりやすいため、ここでは極大値を最大値に、極小値を最小値に読み替えます。また、△OABの面積に最小値は存在しないため、最大値の決定に集中します。
p.66・本文4行目（2か所）、p.67・本文1・3・5・9・10行目（5か所）、p.67・解答1・2行目（2か所）	極大	最大
p.67・本文11行目、p.67・解答3行目	極小	最小
p.103・補足3本文6・7行目（3か所）	$\frac{\Delta}{2L}$	$\frac{\sqrt{\Delta}}{2L}$
p.284・本文1・5行目（4か所）	$k=0$	$k=1$

以上